

原組・原芳満氏

安全衛生活動にまい進

18年度安全優良職長を受賞

2018年度の安全優良職長厚生労働大臣顕彰式典が11日に東京都千代田区の厚生労働省講堂で開かれ、担当する現場や部署で作業員の安全確保に優れた実績を残した職長らを表彰した。18年度は全国で140人（うち建設業73人）が選ばれており、佐賀県内からは(株)原組常務取締役の原芳満氏（66）ら3人を選出。同氏に安全管理対策の取り組みや今後の抱負などを聞いた。



原芳満氏

職長は、建設現場など事業場で部下の作業員を指揮監督し、作業の安全確保と遂行に責任を担う監督者。班長や作業長などとも呼ばれ、「安全のキーパーソン」と言われる。

顕彰制度は、高い安全意識を持って適切な安全指導を実践してきた優秀な職長をたたえることにより、職長を中心として事業場における安全活動の活性化を図ることが目的。1998年度から始まり、今回が21回目となる。顕彰基準は▼職長としての実務経験が10年以上▼職長として担当した現場・部署で過去5年以上、休業4日以上の災害が発生していないーなど。

原氏は92年8月から職長に就き、河川改修や林道開設、農地整備など主に土木工事を担当。職長として作業員の安全確保、第三者に対する事故「公衆災害」の防止に努め、就任以来26年間無事故・無災害を継続中だ。

建設現場ではさまざまな下請企業がかかわる。新たに入ってくる作業員は作業環境の不慣れから労働災害に遭うケースも多いため、「新規入場者に対する安全教育、KY（危険・予知）活動を入念に行い、作業員が互いに不安全行動

を注意しあうことが労働災害の防止に生きてくる」と語る。

現場で問題があれば、躊躇することなく改善のための方法を実行する。その際は「作業員と意見を出し合い、皆が納得する措置を行うことが重要」と指摘。現場に即した対策を全員で検討・共有することにより、信頼関係を構築するとともに安全を最優先して作業に取り組んでいる。

また、各種安全衛生教育を積極的に受講するとともに、建設技術者としての自己啓発にも余念がない。講習会や研修会での学習履歴を示すCPDS（継続学習）の取得単位数は、2014年から4年間で185ユニット。一般社団法人全国土木施工管理技士会連合会が「優良」と規定している4年間の取得単位120ユニットを大幅に超える。

原氏は「一生に一度きりの賞をいただき大変感動している。これからも事故や労働災害を起こさないよう安全第一を心掛け、安全衛生活動にまい進していく。若い人達への技術の伝承、後継者の育成にも取り組みたい」と、受賞の喜びと今後の抱負を語った。

【1月17日HP掲載】